

平成26年度

学校法人昌賢学園

# 事業報告書

学校法人昌賢学園

群馬医療福祉大学大学院

群馬医療福祉大学

群馬医療福祉大学短期大学部

群馬社会福祉専門学校

群馬医療福祉大学附属リハビリ専門学校

群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園

# I. 法人の概要

1. 法人の名称                    学校法人 昌賢学園
2. 事務所の所在地            群馬県前橋市元総社町 152番地
3. 設置する学校
  - ①群馬医療福祉大学大学院 社会福祉学研究科
  - ②群馬医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科
  - ③群馬医療福祉大学 看護学部 看護学科
  - ④群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部・リハビリテーション学科
  - ⑤群馬医療福祉大学 短期大学部 介護福祉学科
  - ⑥群馬社会福祉専門学校 社会福祉専門課程  
福祉保育学科 介護福祉専攻科  
社会福祉士通信課程
  - ⑦群馬医療福祉大学附属リハビリ専門学校 医療福祉専門課程  
理学療法学科 作業療法学科
  - ⑧群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園

## 4. 学生・園児等の数 (平成26年5月1日)

学部・学科名	入学定員	収容定員	学生・園児数
群馬医療福祉大学大学院 社会福祉学研究科	10名	20名	3名
群馬医療福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科	90名 編入40名	440名	430名
群馬医療福祉大学 看護学部 看護学科	80名	320名	367名
群馬医療福祉大学・リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	60名	180名	199名
群馬医療福祉大学短期大学部 医療福祉学科	80名	160名	107名
群馬社会福祉専門学校社会福祉専門課程 福祉保育学科 介護福祉専攻科 社会福祉通信課程	50名 80名 200名	100名 80名 400名	93名 51名 81名
群馬医療福祉大学附属リハビリ専門学校 理学療法学科・作業療法学科 (両学科ともH24年度募集停止)	0名	40名	47名
群馬医療福祉大学附属鈴蘭幼稚園	90名	280名	75名

5. 役員

理事 8人 監事 2人 評議員 19人

6. 教職員の状況 (平成26年5月1日)

	人員数		
大学院教員	4名	短期大学部教員	11名
兼任講師	13名	兼任講師	6名
大学教員 (社会福祉学部)	37名	専門学校教員	10名
兼任講師	35名	兼任講師	25名
大学教員 (看護学部)	31名	幼稚園教員	9名
兼任講師	57名	事務職員	37名
実習補助教員	16名		
事務職員	7名		
大学教員 (リハビリテーション学部)	14名		
兼任講師	6名		

7. 土地及び建物の状況

① 土地の状況 (単位:㎡)

部 門	法 人	群馬医療福祉大学	短期大学部	群馬社会福祉専門学校	附属鈴蘭幼稚園	合 計
校 地	1,847.12	18,451.00	15,360.39	2,413.44	3,621.01	41,692.96
合 計	1,847.12	18,451.00	15,360.39	2,413.44	3,621.01	41,692.96

② 建物の状況 (単位:㎡)

部 門	法 人	群馬医療福祉大学	短期大学部	群馬社会福祉専門学校	附属鈴蘭幼稚園	合 計
校 舎	291.49	10,964.93	4,943.00	2,282.42	1,890.12	20,371.96
合 計	291.49	10,964.93	4,943.00	2,282.42	1,890.12	20,371.96

③ 土地建物借用状況 (単位:㎡)

	法 人	群馬医療福祉大学	リハビリ学部・専門学校	看護学部	合 計
校 地				26,222.00	26,222.00
校 舎			4,744.38	11,477.00	16,221.38
駐 車 場		4,699.28			4,699.28
合 計		4,699.28	4,744.38	37,699.00	47,142.66

## II. 部門事業報告

### 「企画調整室報告」 地域に開かれた学園として（幼稚園 専門学校 大学）

本学園では、地域に開かれた学園として地域貢献、地域連携活動を積極的に進めております。少子高齢社会を迎え、地域の方々の医療や福祉、特に「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められています。企画調整室ではそのようなニーズに対応するため、本学園の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講しております。

大学では3年前から、前橋商工会議所・藤岡市が主催する「まちなかキャンパス」に参加し、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が交流し、語り、楽しめる学びの場を提供しております。この「まちなかキャンパス」を通じて、地域の皆様をつなぐ架け橋として、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

その他、近隣の公民館においては子育て支援講座、高齢者教室を定期的実施したり、教員が施設や学校に出向き講座を実施したりする出前講座も積極的に実施しています。

さらに、今日の少子高齢社会において生ずる種々の問題に対して研究・調査及び情報提供を中心に地域の方々の相談事業にも対応しています。

群馬社会福祉専門学校では社会人の学び直しニーズに対応するため、社会福祉士通信課程の設置や、介護福祉士筆記試験対策講座等を開講しています。E-Learningを使用し、受講生の学習進度に応じて、主体的に学べることに大変好評を得ております。

附属幼稚園では、鈴蘭幼児教育センターを設置し、子育て支援や育児相談等に応じています。地域貢献活動として元総社地区文化祭や前橋まつりに参加し、秋には幼稚園バザーを行い地域の方々との交流を深めております。

このような活動を通して、開かれた学園として地域の方々が気軽に往き来できる学園づくりを進めております。

以下は26年度の実績報告となります。

#### 1 まちなかキャンパス 前橋商工会議所連携事業 29 講座開催 述べ 456 名参加

群馬医療福祉大学は前橋商工会議所連携事業としてまちなかキャンパスを開催し、地域の方々を対象に、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が求められています。そのようなニーズに対応するため、本学の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講いたしました。

#### 2 論語の学堂 講座開催 述べ 160 名参加

本事業は本学の歴史及び建学の精神に基づき、平成24年3月から開始した事業である。本学の淵源は宝徳元年(1949)に遠祖長尾昌賢が学問所を開設したのに始まり、世世漢学の教授を以て地域教育に貢献しています。

古来、漢学と呼び習わされている学問の中心にあるのが四書・五経と総称される中国の古典であり、就中日本では古代より論語が重んじられてきました。そして本学は論語の「仁」を建学の精神とし、学生へ全人教育を行っています。福祉は特に人と人との関係構築が重視される分野であり、人間関係を築く上で最も大事なのが他者を己の如く感じる心、要するにそれが「仁」である。福祉と論語は決して無関係ではありません。この論語の精神、つまり「仁」を広く社会に還元するために、万を期して本年(平成25年)より通年講座として開始いたしました。

### 3 介護講演会 ～十年介護 母の車椅子を押して～ 参加者 280 名

町 亜聖さん 介護講演会

平成 26 年 11 月 15 日(土)時間 13:00～14:30

参加者 280 名



立教大学卒業後、1995 年日本テレビアナウンサーとして入社。様々な番組を経験後、報道に活動の場を移し、アナウンサーだけでなく、記者、アシスタントプロデューサーなども勤めた。

脳障害のため車椅子生活をおくっていた母と過ごした 10 年の日々、そしてその母と父をがんで亡くした経験から医療を生涯のテーマに取材を続ける。

今の日本は、5 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者といわれています。「健康で元気に生活したい!」と思いますが、「介護」はある日突然、あなたの家にやってきます。高齢者介護においては、孤独な介護や頑張りすぎる介護により、介護者のうつや自殺、虐待などの問題が生じています。“家族に介護が必要になったとき、自分に何ができるのか”と準備する人は意外に少ないものです。講演では、町さんの経験をもとにお母様と過ごした時間や家族の絆、『医療』と『介護』という生涯のテーマについてお話いたします。



### 4 公開講座 26 年 10 月～11 月予定 639 名

本講座は、本学における教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の福祉と医療の向上に資することを目的に実施いたします。25 年度も大学院の社会福祉学研究科、大学の社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部、短期大学部の介護福祉学科等の教員が講師として、講座を開設いたしました。



### 5 公開授業 7 月 20 日(土)実施 169 名参加 (前橋 70 名 看護 55 名 リハ 44 名)

学校法人昌賢学園 (以下本学) で学んでいる学生たちは、それぞれの夢や目標に向かい、希望実現のために勉学に勤しんでおります。

そこで学生たちがどのような学習を行っているか実際の授業の参観と、さらには保護者の方に授業を体験していただき実体験を通じて本学の教育の実際をご理解いただく場とするとともに、本学の教育に対する希望などを拝聴する機会とし、本学の教育内容の充実・強化の一助にすることを目的として開催しました。

**6 リハビリテーション研修会 平成 26 年 11 月 8 日(土) 参加者 160 名**

場所 リハビリテーション学部 101・102 室

講演 1 は、善衆会病院 理事長ならびに病院長である、木村雅史先生に「膝のスポーツ外傷」をご講演いただいた。木村先生は、日本でも有数の膝関節治療の名医であり、善衆会病院の整形外科外来には、関東一円から、膝のトラブルをかかえるスポーツ選手が多数来院します。その豊富なご経験の中から、1. 靭帯損傷、2. 半月板損傷、3. 膝蓋骨脱臼、4. 骨折の 4 疾患について、発症機転、診断、治療についてご講演いただいた。その中で、術前術後に理学療法士の果たす役割の重要性について繰り返し強調され、参加した療法士の先生方に心強いエールを送っていただいた。



**7 高大連携事業 単位認定授業開講 8/6~8/8 12/25~12/26 21 名参加**

群馬医療福祉大学は、「地域に開かれた大学」を目指しており、その取り組みの一つとして地域の高等学校のとの連携を進めております。

高校時代に本学が実施する高大連携授業科目を履修することにより、社会福祉に関する内容を理解することができ、進路の選択に役立つこと、及び高校生活の充実、学習意欲の一層の向上に寄与することを目的として実施いたしました。

なお、この高大連携授業により習得した単位は、本学に入学した場合は本学で修得した単位として認定しております。



**8 東公民館家庭教育学級連携事業 もっと！すくすくおやこスクール 30 名参加**

子育てについてのコツや困ったときの対処法について学ぶとともに、日ごろ思っていること悩んでいることなどについて情報交換し、親子ともに楽しく健やかな毎日を応援します！みんなで一緒に楽しく子育てしませんか？ 群馬医療福祉大学の先生方が講師として色々なことを実践しました。

期間 平成 26 年 12 月 12 日(金)~1 月 27 日(火)

時間 10 時~12 時

会場 前橋市 東公民館

参加者 未就園児をもつ保護者とその子



## 9 東公民館 高齢者教室 参加者 述べ30名

高齢者と地域のふれあいの輪を結び、お互い学びあうとともに、こころ豊かな生活（健康・仲間づくり等）づくりを目的に地区内在住の概ね60歳以上の方を対象に実施。健康増進と地区の交流や東地区老人クラブ連合会の事業（学習活動）として位置づけられています。本学介護福祉学科の教員が講師として講座を担当いたしました。

9月14日(木)

介護福祉学科 講師 矢嶋栄司  
辻 志帆

### 「寝たきりを防ぐ介助のコツⅡ」



## 10 群馬県老人福祉施設協議会中毛ブロック・群馬医療福祉大学短期大学部 連携事業

### 平成26年度老人福祉施設中堅介護職員現任研修

#### 1. 日程

8月2日(土)、9月6日(土)、10月4日(土) 【合計3日間】

#### 2. 開講時間

講義・演習時間 13:00~16:30

#### 3. カリキュラムのねらい

本研修のカリキュラムは、施設で介護等職員として就業する、30~40代の中堅職員を対象に実施。次期の指導的職務を担う人材として、求められる介護的・リーダー的職能を養う学習を目指し、カリキュラムの内容は、基本的知識・技術を養うことから、演習系科目を多く取り入れて、議論、意見集約などを用いて「教育および指導力の養成」をねらいとして実施いたしました。

## 11. 自治体や団体との連携と人的資源(マンパワー)の提供

本学はボランティアや環境美化活動を通じた教育を重視し、学生の主体性を重視した教育を実践しています。特にボランティア活動は単位化し必修科目としています。以下のとおり26年度の地域貢献を行いました。

### ・地域貢献活動への取組

前橋市

前橋まつり、前橋七夕まつり、前橋シティマラソン

前橋あそか会 あそかまつり、やる気の木プロジェクト学生派遣

前橋ヒルクライム、赤城大沼マラソン





## 「教務部門報告」

### ①平成27年3月

学校教育法一部改正に伴う学則変更を文部科学省に提出。改正内容は教授会の役割の明確化及びそれに伴う学長の役割の明確化

学校教育法の一部改正について（文部科学省の資料より抜粋）

※教授会の役割の明確化（第93条関係）

教授会については、これまで「重要な事項を審議する」と規定されてきたが、教授会は、教育研究に関する事項について審議する機関であり、また、決定権者である学長等に対して、意見を述べる関係にあることを明確化するため、以下のとおり改正を行ったこと。

① 教授会は、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要であると学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べることとしたこと。（第93条第2項）

② 教授会は、学長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができることとしたこと。（第93条第3項）

### ②平成27年3月

群馬医療福祉大学短期大学部が日本医師会より医療秘書養成校としての認定を受ける

日本医師会認定・関東唯一の医療秘書育成短大！（本学ホームページより抜粋）

☆日本医師会が認定している医療秘書養成校は全国で12校、関東では2校しかありません。そのうち、短期大学での養成は本学のみとなります。

医療秘書とは今や電子カルテが主流となる総合病院や診療所といった医療機関において、医療秘書は医師の指示のもと、診察や検査にまつわる医療情報の処理業務など重要な役割を担います。また、医師と患者間の調整を図り、医療情報管理の中心的役割を果たすことにより、医師が本来の専門的活動に専念できるように補佐することが期待される職種です。

### ③平成26年11月25日

看護学部とリハビリテーション学部が、文部科学省 大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）による平成26年度設置計画履行状況調査「実地調査」を受ける

2名の調査委員と3名の文部科学省事務職員の計5名が来校。意見聴取や学生インタビュー、校舎・施設設備の視察調査を実施。

調査の結果、教員組織の編成の充実やディプロマポリシー（学位授与方針の明確化）や一般教養科目の充実などが必要であるとの意見をいただいた。現在、改善計画を示して対応中である。今後とも充実した大学づくりのために努力していく。

## 入試広報部門報告

- |                       |              |
|-----------------------|--------------|
| ①高校訪問                 | ②進学ガイダンス参加   |
| ③高等学校教諭対象説明会          | ④オープンキャンパス開催 |
| ⑤ホームページ・Line・facebook | ⑥WEB媒体       |
| ⑦進路情報誌の掲載             | ⑧出前授業        |
| ⑨新聞広告(主に上毛新聞)         | ⑩FM GUNMA    |

大学(社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部)の募集活動においては、一定の志願者を確保することはできたが、一部の専攻で定員に達しなかった。短期大学部においては定員に達しなかったものの、新たな医療事務・秘書コース設置により昨年度を上回る入学生を確保

することができた。看護・医療系志望者が多い中、福祉・介護の魅力を如何に伝えていくかが大きな課題といえる。同時に本学園の特色や本学園独自の取り組みを明確に打ち出し、他校との差別化を図らなくてはならない。また、受験生の状況をしっかりと把握し、その状況に即した企画立案をしていかななくてはならない。

#### 平成 26 年度オープンキャンパス参加者数

	26 年度	前年対比	前年度 (25 年度)
前橋キャンパス 社会福祉学部 短期大学部	6 1 2 名	3 5 +	577 名
藤岡キャンパス 看護学部	5 1 2 名	+ 3	509 名
本町キャンパス リハビリテーション学部	3 6 2 名	▲ 4 2	404 名
群馬社会福祉専門学校	2 1 4 名	▲ 3 2	246 名
合 計	1 7 0 0 名	▲ 3 6	1736 名

#### 入学者状況 (平成 27 年 4 月入学者数)

	定員	平成 27 年 4 月	前年対比	前年度 (26 年 4 月)
大学院	10 名	5 名	+ 2	3 名
大学 社会福祉専攻	50 名	4 9 名	+ 0	49 名
大学 子ども専攻	40 名	4 1 名	▲ 5	46 名
大学 編入	40 名	2 5 名	+ 1 3	12 名
大学 看護学科	80 名	9 5 名	+ 1	94 名
大学 理学療法専攻	35 名	3 9 名	▲ 2	41 名
作業療法専攻	25 名	2 7 名	▲ 1	28 名
短大 医療福祉学科	80 名	5 4 名	+ 1 6	38 名
専門学校				
福祉保育学科	50 名	5 0 名	+ 1	49 名
介護福祉専攻科	80 名	3 0 名	▲ 2 1	51 名
社会福祉通信課程	200 名	7 0 名	—	—
別科 (実務者研修「通学	30 名	9 月開校	—	—
別科 (実務者研修「通信	100 名	7 月・1 月開校	—	—

## 就職部門報告

◇学生一人ひとりの希望する先への就職ができるように、『就職指導』を授業として開講し、きめ細かな就職支援・求人資料を豊富にそろえ、実践的なアドバイスも交えるとともに現場での即戦力になるためのサポートを実施しています。

インターンシップの一貫として『ボランティア活動』を取り入れ福祉施設等でのボランティア活動に積極的に取り組むことを進めることで進路・就職に対する動機付け、就職後のミスマッチを防いでいます。

学生のキャリア向上及び就職指導の一環として行う支援講座・研修は、変化する社会情勢の中でも十分な就職活動が行えるようバックアップ体制を敷いており、資格取得対策に関しては学生を支援する資格取得講座を数多く開講しています。この資格取得講座の受講者、各種資格試験の合格者は年を重ねる毎に増加しており、公務員（公立保育園を含む）に現役生が合格するとともに、教員採用試験の合格者も数多く出ています。

また、本学のキャリアサポートセンターでは卒業後のキャリア支援も行っており、職場における問題、資格取得及び再就職の支援等、生涯にわたるキャリア形成においても支援しています。

◇社会福祉学部、短期大学部、群馬社会福祉専門学校、リハビリ専門学校、の就職状況は、ここ数年 100%の実績を納めています。

- ・社会福祉学部社会福祉専攻の就職場所は、高齢者関連施設 37%、障がい者(児)施設 25%、病院 6%、福祉関連機関団体(社会福祉協議会・社会福祉事業団) 5%、児童関連施設 12%、教員 5%、一般企業 10%
- ・社会福祉学部こども専攻の就職場所は、保育園や幼稚園 46%、障がい者(児)施設 13%、児童関連施設 13%、高齢者関連施設 2%、一般企業 11%、小学校教諭 11%、病院 2%、公務員 2%
- ・看護学部の就職場所は、病院 98%、養護教諭 2%
- ・群馬社会福祉専門学校の就職場所は、高齢者関連施設 65%、障がい者(児)施設 6%、福祉関連機関団体(社会福祉協議会・社会福祉事業団) 2%、児童 27%
- ・リハビリ専門学校理学療法学科の就職場所は、病院 85%、老人保健施設 15%
- ・リハビリ専門学校作業療法学科の就職場所は、病院 88%、一般企業 12%

### Ⅲ. 財務の概要

#### 施設整備の主な整備状況

##### 大学

建物（付属設備）	12,140,460円	校舎トイレ設備改修工事
教育研究用機器備品	204,660円	聴覚障害学生用ノートPC
その他の機器備品	190,080円	シュレッダー
図書	3,275,326円	
車両	14,144,793円	乗用車（取替）

##### 短期大学部

その他の機器備品	47,520円	シュレッダー
図書	849,103円	

##### 看護学部

教育研究用機器備品	159,300円	スポーツ演習用具一式
その他の機器備品	994,680円	レーザープリンター
図書	2,103,283円	

##### 専門学校

構築物	699,800円	キューピクル防音工事
構築物	378,000円	植栽工事
図書	21,667円	

##### リハビリテーション学部

教育研究備品	140,000円	赤外線サーモグラフィー
その他の機器備品	900,000円	絵画
図書	2,385,504円	

##### リハビリテーション専門学校

図書	117,821円	
----	----------	--

##### 幼稚園

土地	29,533,781円	前橋市元総社町 438.39㎡
建物（付属設備）	5,670,000円	園舎空調設備工事

公認会計士と監事の監査報告並びに・資金収支の状況（経年推移）・消費収支の状況（経年推移）・貸借対照表（経年推移）・財務比率（経年推移）は別掲の通りである。

平成26年度の財務概要として学部・部門の施設設備整備状況は法人全体で全面的に完備されてきた。今年度は学生生活の環境整備を図り、各所修繕としてトイレの改修並びに熱中症設備の補充を実施した。社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部は入学定員・収容定員を的確に確保できており今後も引き続き定員確保は十分に見込まれる。

また、主たる経常収入としての学生生徒等納付金収入はリハビリテーション学部が3年目、看護学部も完成年度を経て着実に推移している。経常経費依存率も数年平均的にほぼ90%台で推移しており、学生生徒に対する教育的還元は行き届いていると思われる。学部増設等が続いたことから繰越消費収支超過額が数年続いていたが、繰越消費収入超過額は大幅に改善されてきた。資金的にも外部借入金等に頼ることなく健全な財政運営を継続できる傾向である。次年度も財務状況は良好に維持し、大学法人としての教育研究目的を達成するために必要な財政基盤をしっかりと確保し、継続的に収支バランスのとれた運営を目指して行く方針である。